

女性起業家 インタビュー

女性の起業が地域を変える

毛呂山町男女共同参画推進会議では、性別に関わりなく個人の能力を發揮し多様な生き方ができる男女共同参画社会の実現を目指し活動しています。

ライフスタイルや家族との暮らしを大切にしながら働く、町内の起業家のお2人にお話を伺いました。



高坂商事株式会社
代表取締役社長

こうさか あつこ
高坂 篤子 さん

2014年、夫と共に長瀬に高坂商事株式会社を設立。日本茶・柚子・梅などの加工品を主にアジアやヨーロッパに輸出している。1年前に長女を出産。「桂木ゆずブランド化協議会」にも参加している。



ミキズハウス
Miki's House 助産院

いしみな みき
石嶺 美紀 さん

長女出産後に助産師を志し、看護学校を受験。子育ての傍ら看護師・助産師・受胎調節実施指導員の資格を取得し、2015年、下川原に助産院を開業。ベビーマッサージや育児相談のほか栄養士として離乳食指導などを行う。

「お2人が起業したきっかけと、今現在どんなお仕事をされているか教えてください。」

石嶺さん 地域で気軽に産後や育児の相談ができる場所を作りたくて、昨年、産後ケア専門の助産院を開業しました。助産院というと「お産」のイメージが強いかもしれませんが、当院では主にベビーマッサージや育児相談を行っています。

高坂さん 海外移住に憧れていた、3年前に夫婦でシンガポールに移住しました。向こうで「日本の美味しいもの、特に地元のものの世界に紹介したい」と思うようになり、日本に戻ってきて起業しました。今は狭山茶や毛呂山町の柚子を輸出していて、昨年からは海外の見本市にも出店しています。

「起業の前後で、ライフスタイルは変わりましたか？」

高坂さん 以前より時間をコントロールできるようになりました。今は、自宅と事務所を兼ねていますが、夫婦そろって子どもと関わるときはきちんと関わり、娘が寝たら2人でガッツと働いています。



←(写真右) インタビュアーで、男女共同推進会議会長の岩上陽子さん。

—ご夫婦でいつしよに仕事をしているから、家事や子育てもいつしよにできているのですか？

高坂さん そうですね！ お陰で子どもの日々の成長を、2人で見守ることができています。

—石嶺さんはいかがですか？

石嶺さん 私も、起業したことで時間ゆとりができました。それまでは病院に勤めていて、シフト勤務だったので時間に追われ、子どものペースに合わせたくても難しかったです。でも、今は娘のペースに合わせて考えられるようになりました。

—起業するのは大変そう、忙しくなりそうだと思っていましたが、実際は逆なんですね。お仕事について、ご家族からどんな応援や協力がありますか？

高坂さん うちの仕事も家事も育児も2人でいつしよにやっています。

—旦那さんは元々家のことに協力的なタイプだったんですか？

高坂さん 元々協力的でしたが、娘が生まれてからは更に積極的に家事をこなしています。

石嶺さん 私は、しばらく専業主

婦でした。出産後、どうしたら助産師になれるか調べたら、看護師免許が必要だったんです。

—結婚前から病院にお勤めしていた訳じゃないんですね。

石嶺さん はい。しばらく勉強から離れていたので受験のとき苦労しました。看護学校を卒業するまでの4年間、土日も図書館で勉強していました。夫が子どもと2人で公園に行ったり、遊園地に連れて行ってくれたり、家事や育児を支えることで応援してくれました。

—お2人の経験から、これから起業しようと考えている人に、メッセージをお願いします。

石嶺さん 毛呂山町の周りには大がたくさんあるので、年齢に関わらず学び直したい人にとってはとても有利。ぜひこ



↑石嶺さんの助産院でのベビーマッサージクラスの日。手のひらから伝わる感触と温かさをとおして、赤ちゃんとの絆が作られます。



↑シンガポールのバイヤーを案内して町内のゆず農家を訪れた高坂さん。海外に向けて地元毛呂山町の「桂木ゆず」をPRしています。

の環境を生かしてほしいです。

高坂さん 私は起業からここまで「かかやってみる！」ですね。

—お2人のこれからの夢はなんですか？

石嶺さん 助産院を、家族の代わりに頼れたり、気分転換のお手伝いができる場所にしたいです。気軽に来れて、楽しく過ごせる空間。あと、子どもたちの自尊心を向上させられるような、命の教育を考えています。子どもの「赤ちゃんってどう生まれるの？」という質問に対して、ごまかさずに年齢に合わせて説明してあげたいんです。産後すぐだけでなく10年・20年続く「子育て」のお手伝いを、地域でしていきたいです。

高坂さん 会社をもっと大きくして、女性をたくさん雇用して、

女性が働き方を選べる環境を作りたいです。社内に保育園を作ったり、シフトに合わせて出勤するのではなく人に合わせてシフトを組んで、育児の空いた時間を使って働ける会社を作りたいです。いっばいスキルがあるのに、出産や子育てを機に仕事を辞めてしまうのはもったいない！子育てにやさしい社会にしていきたいです。

—お話しを聞くまでは、「起業」というと苦労が多いだろうと想像していました。しかし実際は、起業したことでお子さんの時間を作ることができ、自分のペースで生き生きとお仕事されていると感じました。これからも女性の活躍が進み、すべての人が自分らしく輝けるよう、地域に根ざしたお仕事を続けてほしいと思います。

毛呂山町では、平成28年3月中旬に「第三次もろやま男女共同参画プラン」を策定します。策定にあたり実施した意識調査の結果と共に、毛呂山町ホームページで公開する予定です。